

機能区分	現状
高度急性期	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能
	▶ （東葛南部医療圏） 心筋梗塞、脳卒中、頭部外傷等の重篤救急患者のための医療を提供する救命救急センターとして、地域医療の中核を担う 船橋市立医療センター、順天堂大学浦安病院の2病院を中心に高度急性期医療を担っている。
	▶ （船橋市） 船橋市立医療センターを中心に、急性期医療の中でもより複雑な病態にも対応できる高度急性期医療の提供が行われているが、一部の高度医療が必要な患者について東京都等への流出がある。（資料7参照）
	▶ （船橋市立医療センターの対応） 船橋市立医療センターは、急性期医療及び高度医療を提供する総合診療機能を有する 船橋地域の中核病院として、急性期を対象とした患者に対して診療密度の高い医療を提供している。 （船橋市立医療センター中期経営計画 平成27～29年より）
急性期	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
	▶ （東葛南部医療圏） 平成25年5月の国保レセプト調査によると、東葛南部保健医療圏の入院患者の自足率は74.8%であり、医療圏内の医療機関がそれぞれの役割分担に基づいて機能を発揮しながら、地域全体でネットワークを構成している。
	▶ （船橋市） 船橋市立医療センター、船橋中央病院、千葉徳洲会病院等の医療機関が機能分担し、急性期患者の受入を行っている。
	▶ （船橋市立医療センターの対応） 船橋市立医療センターは、急性期医療の中核的な役割を果たし、 特に医療圏内において「呼吸器・循環器・腎尿路・女性生殖器・外傷」のシェアが高く、他の疾病についても船橋中央病院、八千代医療センター、済生会習志野病院等、各医療機関間での機能分担を図りながら地域医療を確保している。
回復期	○ 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。 ○ 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）。
	▶ （東葛南部保健医療圏） 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関（H22.09.01現在）は、 10病院 となっている。
	▶ （船橋市） 回復期リハビリテーション病棟を有する医療機関（H22.09.01現在）は、 4病院 となっている。
	▶ （船橋市立医療センターの対応） 船橋市立リハビリテーション病院等と連携して、急性期から回復期までの継続的なリハビリテーションが行われている。

慢性期	○ 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能
	○ 長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能
	▶ （東葛南部保健医療圏） 医療圏内の療養病床は 2,420 床であり、人口 10 万対療養病床数は 144.1 床と県平均（156.4 床）を下回っている。（医療施設調査 平成 23 年 10 月 1 日現在）
	▶ （船橋市） 市内の 7 施設が療養病床をもち慢性期医療に対応している。
	▶ （船橋市立医療センターの対応） 急性期医療については、亜急性期、慢性期への連携、さらに在宅医療やかかりつけ医の診療へと移行が前提となり、船橋市はもとより市外の医療機関と連携を深くしながら医療を行っている。